

CITY OF YOKOHAMA

高齢者の皆様の暮らしに
さらなる“あんしん”をお届けします

「横浜に住んでいてよかった」と実感していただけるまちを目指して

2025年5月14日
市長定例記者会見



新たな施策の狙い

横浜市ではこれまで、

高齢者の皆様がいつまでも「自分らしい暮らし」を送ることができるよう、
さまざまな施策に取り組んできました

その中で、最近では、いわゆる「終活」など、

人生のエンディング期に関する皆様の関心が高まってきています

そこで、

高齢者の皆様の不安に寄り添い、さらなる安心につながる

新たな施策に取り組みます

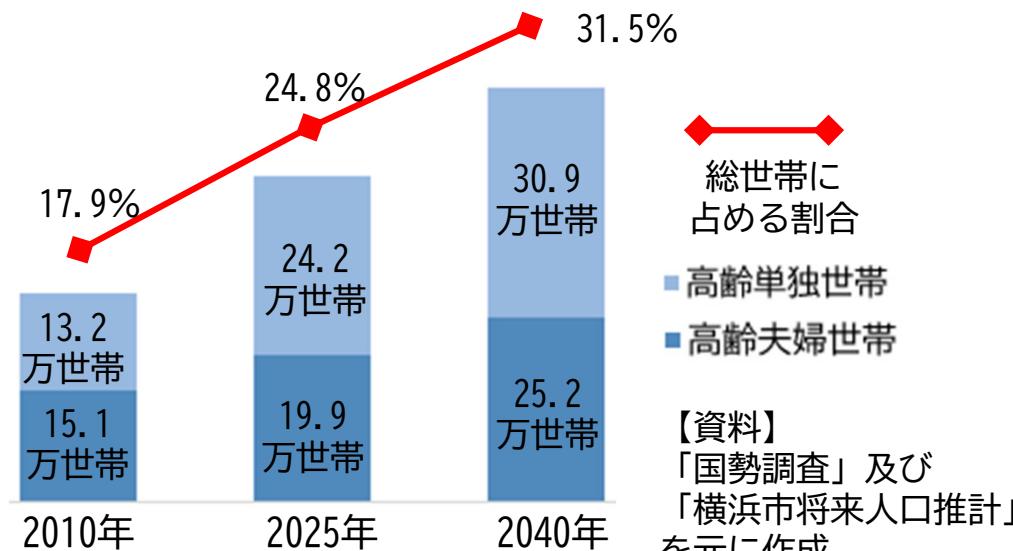
横浜市の高齢者の状況



高齢夫婦世帯・高齢単独世帯が増加しています。
2040年には市内の**約3分の1**が高齢夫婦世帯または高齢単独世帯になる
と見込まれています。

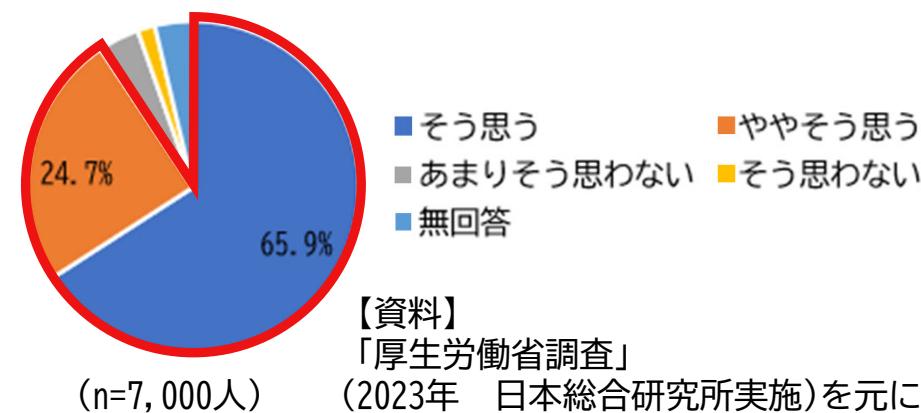
また、**約9割**の方が、ご自身の病気や介護、亡くなった時など、
将来に備えておきたいと考えています。

【高齢夫婦世帯・高齢単独世帯の増加】



【将来の備えに関する調査】

(設問)ご自身が病気になったり、介護が必要になったり、亡くなったりした時の手続きを、周囲の人が滞りなくできるよう備えておきたいと思いますか。



高齢者の皆様の暮らしにさらなる “あんしん” を



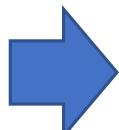
高齢者の皆様から寄せられた声

※広聴等で寄せられた意見から抜粋

一人暮らしだと、急な体調不良に気づいてもらえないで不安です

万が一に備えて、緊急連絡先を登録できると安心です

「終活」と言っても、どうすればよいのかわかりません



【4つの新たな施策】

- ① ICT機器を活用した見守り・安否確認サービスの助成を開始します
- ② いざという時の安心につながる「情報登録事業」を開始します
- ③ 「終活」に関するお困りごとなどの相談窓口を設置します
- ④ 安心して備えるためのリーフレットを作成します

あんしん①

見守り・安否確認支援

(令和7年4月 開始)



ICT機器を活用した民間の見守り・安否確認サービスを利用する

一人暮らしで65歳以上の高齢者の方に、月額1,000円を助成します

(助成対象としている見守り機器の月額使用料：1,100～3,278円)

所得制限はありません

助成期間の制限はありません

機種の選び方など、区役所でご相談をお受けしています

【参考】見守り機器の例

(緊急通報タイプ)



ボタンを押すと
警備会社に緊急電話連絡

(センサーティプ)



人感センサーに一定期間感知がないと
登録連絡先にメール送信

(生活リズムタイプ)



一定時間冷蔵庫の開閉がないと
登録連絡先のアプリに通知

あんしん②

情報登録事業の開始 (令和7年秋以降 開始予定)



「緊急連絡先」や「エンディングノートの保管場所」などの情報を、
事前に市に登録できる「情報登録事業」を開始します (65歳以上の方が対象)

いざという時に、ご本人の意思の反映につながるよう、
事前にお預かりした情報を、病院、警察、消防などにお伝えします

【登録項目のイメージ】

- ①緊急連絡先(氏名、住所、電話番号、続柄)
- ②かかりつけ医(医療機関名、所在地、電話番号)
- ③エンディングノートの有無、保管場所
- ④本籍地・筆頭者
- ⑤葬儀や遺品整理等の生前契約先
- ⑥納骨先の所在地
- ⑦遺言の保管場所



あんしん③

相談窓口の設置 (令和7年秋以降 設置予定)



「終活」に関するお困りごとのご相談や情報登録に関するご相談をお受けする新たな相談窓口を横浜市社会福祉協議会に設置します
さらに、各区内に1か所程度の相談窓口を設置します



あんしん④

リーフレットの作成 (令和7年秋以降 配布予定)

将来に向けて必要となる備えや利用できる行政サービスの案内、
終活サービスを提供する民間業者を選ぶ際の留意点を掲載した
「終活 みちしるべ」を作成します



あらゆる世代の皆様が
暮らしやすい環境づくりを
しっかりと進めていきます